

学校法人帝京大学 女性活躍推進法行動計画

計画期間 2016年4月1日～2021年3月31日までの5年間

本学課題
・管理職に占める女性教職員の割合が低い。
・女性教職員在職比率に比べ、管理職に占める女性割合が低い。

目 標 女性教職員在職比率を現状維持し、女性教職員管理職比率を2020年度までに25%とする。

取組内容

1. 管理職手前の女性教職員を対象とした養成を行い、キャリア意識を向上させる。

・2016年度
「ワーキンググループによる各種施策検討」
男女共同参画推進委員会ワーキンググループによる検討を行う。

「キャリアアップセミナー実施」
管理職をめざす女性教員のための研修・セミナーを企画実施する。

「職種別メンタリングシステム開発」
すそ野拡大のため、職種別メンタリングシステム運用ルール策定を行う。

・2017年度以降
「職階別交流会実施に向けた検討」
職階等に応じた女性教員同士の交流機会の仕組みについて検討を行う。

「復職支援相談・セミナー実施」
復職女性および配偶者、その上司等を対象とした面談やセミナーを実施する。

2. 女性が就業継続できるよう、男女ともにワークライフバランスを実現しやすい環境を整える。

・2016年度
「男性も利用できる支援制度の再検討」
男性も利用できる両立支援推進の取組について検討を行うとともに、男性の積極的な育児休業取得への働きかけを行う。

「介護状況にある教職員の状況把握」
介護休暇の利用状況について把握し、制度改訂に向けた検討を行う。

「18時以降の会議設定の規制」
やむを得ない状況を除き、18時以降の会議設定を禁止し、周知を図る。

「ノー残業デーの実施」
部署毎にノー残業デーを設け実施する。

3. 男女共同参画実現に向け組織の意識改革を継続・発展させる。

・2016年度
「トップメッセージの発信」
理事長・学長より、女性活躍推進に向けたメッセージを発信する。

「シンポジウム実施」
男女共同参画推進に関するシンポジウム・セミナーを実施し、男女の固定役割分担意識の改革をおもに管理職に向けて働きかける。

「ハラスメント調査・相談窓口の周知」
ハラスメントに関する調査結果を公表し、相談窓口の周知徹底を図る。



女性医師・研究者支援センターは、国の働き方改革の動きと歩調を合わせながら、本学の特徴をいかした女性のライフとキャリアを支援する取組を進めてまいります。



帝京大学50周年記念男女共同
参画シンポジウムを開催

帝京大学板橋キャンパスにて、5回目となる「男女共同参画シンポジウム」を開催しました。本学創立50周年を記念した国際学術集会（メインテーマ「過去をしのぐ未来へ：社会を変える保健医療職の力」）との連動企画として「アジアの女性リーダー育成」と題し、アジアと日本の保健医療分野における「男女共同参画、女性リーダー育成、女性のエンパワーメント」を考えるシンポジウムを実施しました。

Session 1「アジアの女性エンパワーメント・リーダー 3つの地域から」では、マレーシア・台湾・中国より地域の女性リーダーである研究者を招いて、それぞれの分野における研究成果と、女性の活躍に関する地域の特異性、先行事例と問題点について講演いただきました。

Session 2「帝京で輝く若手女性リーダー 3つのストーリー」では、本学女性研究者2名と学生1名より、研究と女性リーダーの育成について、自身の経験・活動について報告が行われました。

当日は、第48回アジア太平洋公衆衛生学術連合国際会議も開催されており、会議に出席したアジア各国からの参加者も加わって、熱のこもった情報交換・交流が行われました。参加者は52名にのぼり、女性リーダー育成やエンパワーメントについての検討が盛り上がり、女性活躍・支援の機運が大いに高まりました。

シンポジウム概要

帝京大学50周年記念男女共同参画シンポジウム
「アジアの女性リーダー育成」

日時：2016年9月17日（土）午後3時～午後6時
場所：帝京大学板橋キャンパス大学棟207講義室
司会：野村恭子（帝京大学女性医師・研究者支援センター室長）

Session 1「アジアの女性エンパワーメント・リーダー」

「女性から見た科学技術分野のキャリア構築」
Low Wah Yun氏（マラヤ大学医学部研究管理センター所長）
「肺がん患者における在宅歩行有効性に関するランダム化比較試験」
林佳静氏（台北医学大学看護学院長）
「一人っ子政策廃止後の中国の妊婦の健康問題について」
邱麗倩氏（浙江大学医学部産婦人科学講座教授）

Session 2「帝京で輝く若手女性リーダー」

「肥満と乾癬～日本の女性皮膚科医が研究すべき理由～」
多田弥生氏（帝京大学医学部皮膚科学講座）
「緩和ケア：患者ケアの素晴らしい方法について」
黛芽衣子氏（帝京大学医学部緩和医療学講座）
「国際保健学分野において一地域の医学生ができること」
前原里美氏（帝京大学医学部5年生）

TOPICS

育児・介護休業法が改正されました

2017年1月1日より、育児・介護休業法が改正されました。男女ともに育児・介護期にあっても「離職」という選択肢をとらずに働きつづけることをねらいとしています。詳しくは厚生労働省ホームページでご確認ください。
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000130583.html>

TOPICS

働き方改革実現会議をご存じですか

一億総活躍社会の実現に向け設置された「働き方改革実現会議」により、2017年度末をめどに残業時間の月上限に関する取り決めなど提言がまとまる予定です。詳しくは首相官邸ホームページでご確認ください。
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/hatarakikata/>

TOPICS

ジェンダーギャップランキング 日本は111位に転落

2016年の世界各国の男女平等度合いを示すジェンダーギャップ指数において、日本は総合111位（144か国中）と過去最低を記録しました。特に政治・経済の分野での格差が大きく、すみやかに解決すべき問題として対策が求められます。

お問い合わせ先

帝京大学女性医師・研究者支援センター 〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1 病院棟6階

Tel. 03-3964-8456 / Fax. 03-3964-8457 / E-mail: women@med.teikyo-u.ac.jp

開室曜日・時間：月～金 9時～17時

※掲載情報は2017年3月現在のものです。 編集：関屋/仲山



特集1 女性医師・研究者支援センターの取組

医薬医療技術学部 3 学部共通キャリア教育

2015年度に引き続き、2016年7月から2か月間にわたって、医学部・薬学部・医療技術学部の1年生を対象としたキャリア教育科目「医療界の男女共同参画社会の構築とキャリアデザイン」を全8回実施しました。卒業後、医療・福祉の現場で互い連携・協力しながら少子・高齢社会を支えていく学生同士で、グループディスカッションを交えながら自分たちの「すぐそこにある未来」を生きていくための知識・思考力・実践力を身につける授業です。政策・法律・医学・薬学など各分野の専門の先生が授業を担当しオムニバス形式で進められ、多方面から、男女共同参画社会を担っていくことを学び、女性も男性もいきいきと仕事と家庭を両立する新しい生き方を提案します。

2017年度は、担当に医療技術学部の先生にも加わっていただき、グループ医療を担う医療人としてのキャリア構築について学ぶ時間を増やし、ロールモデル提示の場としてもバラエティに富んだものになる予定です。



2016年度3学部共通キャリア教育科目授業内容

第1回 「我が国の女性の就労の現状と国の男女共同参画施策」	村上文
第2回 「医療界における男女の就労機会格差、 医療界における労働問題」	野村恭子
第3回 「結婚と出産のタイミング」	野村恭子
第4回 「女性研究者のワーク・ライフ・バランスを考える (スモールグループディスカッションを交えて)」	金子希代子 樋直子
第5回 「キャリアデザイン：キャリアの考え方と自分の強みを知る」	野村恭子
第6回 「女性の就労とジェンダーに関する法律全般について」	大滝恭弘
第7回 「帝京大学における男女共同参画社会の構築の取組： 真に女性の活躍を促すために」	野村恭子
第8回 「習熟度確認」	野村恭子

研究支援員制度・保育支援制度

2016年度「研究支援員制度」と「保育支援制度」の運用を9月より開始。2017年2月現在の申請・稼働状況は以下のとおりです。2017年度は、今年度の運用状況をもとに新制度に改め、研究支援員制度については3月上旬、保育支援制度については4月上旬に詳細をホームページ上で公開する予定です。

2016年度 研究支援員配置制度 配置実績				
配置支援員数	内訳			
	薬学部	医療技術学部	助産学専攻科	文学部
8名	2名	3名	2名	2名
被支援者数	内訳			
	薬学部	医療技術学部	助産学専攻科	文学部
6名	1名	2名	1名	2名

2016年度 保育支援制度 利用実績	
申請件数	19件

ジャーナルクラブ

ジャーナルクラブは昨年度と同様、公衆衛生学研究科選択科目「スタディクリティーク」として、4月14日から12月22日にかけて計15回実施。各回大学院生をはじめ医学・医療技術学を学ぶ学部生や若手女性研究者・医師が参加し、講師のプレゼンテーションをもとにディスカッション中心に進めました。研究力向上をめざすとともに、参加者にとっては情報交換やネットワーキングの場にもなり、2017年度の参加者数はのべ183名になりました。

男女共同参画推進ワーキンググループ

今年度より男女共同参画推進委員会の中に教員と事務で構成するワーキング・グループを立ち上げ、各分野にわかれて支援内容・施策の検討を開始しました。検討結果は年度末の「男女共同参画推進会議」(ステアリングコミティ)に報告し、本学の「男女共同参画」「女性研究者支援」にいかされる予定です。

アンケート調査協力のお礼

第4回学内アンケートへのご協力誠にありがとうございました。アンケート結果は当センターホームページとニュースレターに掲載の他、今後のセンターの活動にいかしてまいります。

特集2 学内外でのセンターの取組

海外講師によるアカデミック・セミナー

10月6日に女性医師・研究者支援センターの国際メンターであるスタッセン教授(ベルギー ルーベン大学高血圧・疫学研究センター主任教授)が来日。学生・研究者との交流の時間をもちたいとして、センターにて高血圧についてのミニ・セミナーを開催しました。「JAMA」「Lancet」「England Journal of Medicine」をはじめとする海外の一流医学雑誌で数々の論文を発表するなど、非常に高名な研究者であるスタッセン教授と交流できる貴重な機会とあって、分野・年齢を問わず、多くの学生・研究者が集まり、真剣な様子で教授の講義に耳を傾けました。



「夢を拓く」女性・女子中高生のための講演会

2月11日に香川県で女性の生き方・働き方を考える講演会・座談会が行われ、ちば総合医療センター救急集中医療センターの福家伸夫教授と当センター野村室長が参加しました。「少子高齢化を考える～日本におけるこれからの女性の働き方」と題し講演を行いました。日本の少子高齢化が社会情勢にもたらす影響や女性活躍が求められる背景などについて説明しました。その後の座談会では、女子中・高生10名とともに将来やキャリアアップについて考え、これから社会に出ていく若者にエールを送りました(主催：国際ソロプチミスト観音寺、後援：観音寺市・教育委員会、三豊市・教育委員会)。



都医師会次世代育成委員会アンケート

東京都医師会次世代育成委員会で、都内13大学医学部における女性医師支援に関するアンケート調査を実施しました。結果は報告書としてまとめられ、各大学の若手女性医師支援策の検討にいかされる予定です。また東京都医師会は年1回「医学生・研修医をサポートする会」を実施しており、本学も若手医師・研究者の育成をめざし都医師会と連携していきます。

理系女子中高生対象トーク・セミナー

3月12日に理工学部(宇都宮キャンパス)で理系に興味をもつ女子中高生を応援するセミナー「リケジョが支える日本の未来! トークイベント」を実施し、地元を中心に多くの女子中・高生はじめ教員、保護者が集まりました。

セミナーでは、企業や団体で働く理系出身女性の体験談などから、理系出身者の働き先やメリット・デメリットなどについての興味深いお話を講義とパネルトーク形式で伺いました。詳細は次号ニュースレターで改めてご紹介します。

宇都宮キャンパスでは、バイオサイエンス学科の平澤孝枝講師と高山優子講師が中心となり、昨年開催した女子高生対象サイエンスキャンプを皮切りに、シリーズで理系女子学生を応援するプロジェクトを展開しています。これからも帝京大学は、理系志望の女子中学・高校生たちの背中を押す企画を続けていきます。

リケジョが支える日本の未来! トークイベント概要

日時：2017年3月12日 13:00～16:00
会場：帝京大学宇都宮キャンパス 地域経済学科棟102
講師：1.久保田浩美氏 (花王株式会社基盤研究セクター安全性科学研究所)
2.大島実穂氏 (株式会社安藤・間社長室人事部人材開発グループ)
3.木村孝枝氏 (日立オートモティブシステムズ株式会社)
4.瀬尾かおり氏 (東京都文京区総務部総務課ダイバーシティ推進担当)

